

日経ビジネス

# Priv.

life style magazine for nikkei business subscribers

プライヴ  
夏号 SUMMER

2012年6月発行  
日経BP社

月を意識して  
Moon Conscious



心躍る、  
フランス庭園を  
巡る旅へ  
第2回

Découverte des Jardins du  
Château du  
Champ de Bataille et  
des Jardins du Château Brécy

月光と星空のオペラ、秘密の花園。  
ノルマンディーのシャトーの魅力は  
庭園にあり。

photography by Taisuke Yoshida ● text by Mariko Awano  
special thanks to Atout France [www.rendezvousenfrance.com](http://www.rendezvousenfrance.com),  
Normandy Tourist Board [www.normandy-tourism.jp](http://www.normandy-tourism.jp), Air France [www.airfrance.co.jp](http://www.airfrance.co.jp)

サン ガブリエル-ブレスーの街にある  
ブレスー城の庭園。  
ツゲのトピアリーが見事に刈り込まれた  
花壇はフランス庭園の特徴で  
「刺繍花壇」と呼ばれるもの。  
装飾的なオーナメントには  
イタリア庭園の影響も見られる。

庭園の風に吹かれながら  
宵の明星を見上げつつ  
オペラを聴く幸せ



夜は、夢幻の世界に包まれ、まるでタイムスリップしたかのようだ。  
ところで、フランスの庭園文化が開花したのはルネサンス期以降。17世紀には、かのベルサイユ宮殿の庭園設計で名高いアンドレ・ル・ノートルといった卓抜した庭園設計家たちが現れ、平面幾何学式庭園と呼ばれるフランスの庭園様式の礎を築いた。シャン・ド・バタイユ城の庭園はまさにこの様式を踏襲したものといえるが、ここでもうひとつ紹介するノルマンディーの西、カーンに程近いサンガブリエル・プレシーの街にあるブレンシー城の庭園は、また異なる趣を持つとしておきの秘密の花園だ。  
密やかな門をくぐり中に入ると小さな中庭とシャトーがあり、その奥に思いも寄らぬほどパースペクティヴに広がる庭園が現れる。遙かかなた地平線まで見渡すことができる大胆な庭園設計は意外な驚きの連続だ。庭師の案内で、裏の門の外側に出てみると、その先には芝生の道が一直線に伸びているというスケールの大きさなのである。  
庭園は17世紀に造園されたもので、当時の原形をとどめる数少ない庭園のひとつとして、歴史的にも重要な価値があるというもの。シンメトリーに幾何学的に区画された道や庭の起伏は緻密に計算され、丸や円錐に刈り込まれたツゲの木が配され、アラベスク文様の刺繍花壇やブルーの色でまとめたガーデン、城内の教会の裏手に佇むオールドローズのガーデン、ハーブガーデンなどが均衡の取れた

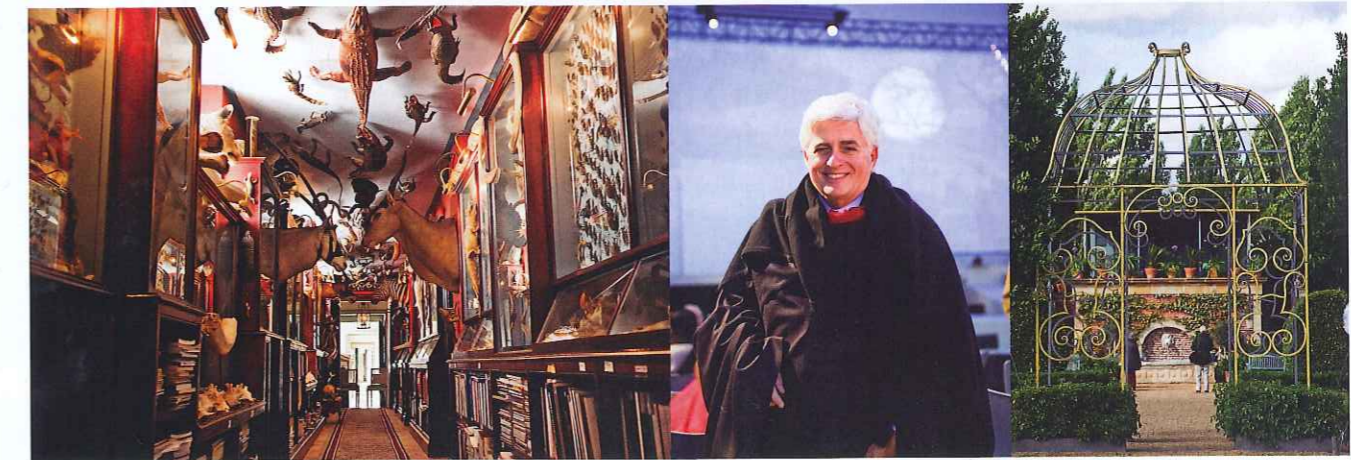
### Château & Jardins du Champ de Bataille

シャン・ド・バタイユ城と庭園

著名なインテリアデザイナー、ジャック・ガルシアのプライベート・シャトーと庭園。年に一度、6月に野外オペラが開催。

27110 Le Neubourg  
tel +33(0)2-32-34-84-34  
www.duchampdebataille.com

右：シャン・ド・バタイユ城の庭園。  
シャトーのファサードの前に広大な刺繍花壇、  
両脇にボスク(叢林)がある。  
左：2011年6月に開催された  
野外巡回オペラ「蝶々夫人」の一幕。  
www.operaenpleinair.com  
シャトーの庭園で、星空と月光の下での  
風雅なオペラに観客も魅了されて。



右：庭園内の装飾的なパーゴラや壁泉。  
中：シャン・ド・バタイユ城のオーナー、  
ジャック・ガルシアは城の修復に情熱を傾けた。  
左：シャトー内には、ガルシアのコレクションが、  
剥製の部屋はガルシアの世界的真骨頂。

パリから北西へ約120km、ル・ヌーブルという地に、フランスインテリアデザイナーの巨匠、ジャック・ガルシアが所有するシャトーがある。その名はシャン・ド・バタイユ城。ジャック・ガルシアはパリのホテル・コストをはじめ、世界各国で独自のエキゾチックでリクスな内装を手がける人物。そんな彼を虜にしたシャトーとは、庭園とは、いかなるものか。期待に胸が高鳴る。  
時は17世紀、要人によって建設されたものの、長い歴史を経て荒れ果ててしまっていたこのシャトーを、ガルシアが入手したのが1992年。以後12年もの歳月を費やし現在の姿に修復した。シャトーに足を踏み入れると、そこはルイ14世時代のバロック様式の大理石の床や彫像ルイ15世を迎えるための間など、絢爛豪華な部屋が続く。ガルシアのインテリアの手腕が遺憾なく発揮され、優美な家具や調度で埋め尽くされている。  
38ヘクタールに及ぶ広大な庭園には、フランス式庭園の特徴である刺繍花壇や噴泉、滝、バラ園から菜園までが設けられ、それまで何もなかった荒地に6万本のツゲ、1万本のクマシデの生け垣、3万5千本のイチイ、2千5百本の菩提樹を植えて蘇らせた。このシャトーと庭園の再生に、ガルシアが並々ならぬ情熱を注いでいることが窺える。  
シャン・ド・バタイユ城では、年に一度、6月に野外オペラが開催される。シャトーと庭園に囲まれて響く歌声とオーケストラ。ノルマンディーの夏のオペラの



イチョウの木がシンボルツリーのシャトー・ラ・シュヌヴィエールの庭。  
18世紀に建てられた優雅な館に泊まり、周辺の庭園巡りを楽しみたい。

芸術的な様式美もさることながら、明るい陽射しと木立のなかを散策する愉しさ、花々を愛でる喜び、新鮮な野菜や果物を栽培する楽しさに溢れたフランス庭園は、人間が本能的に必要とする理想の楽園といっても過言ではない。

18世紀の建物を改装したホテルは、英国風のマノワール（田舎の館）のような佇まい。ロマンティックなインテリアのゲストルームで、旅の余韻に浸る。

#### Château La Chenevière シャトー・ラ・シュヌヴィエール

カンの北西、ドーヴィルとシェルブール  
の中間の海辺近くにあるシャトー・ホテル。  
エレガントな雰囲気、歴史のある大木  
に囲まれた手入れの行き届いた庭も自  
慢のひとつ。

14520 Escures-Commes  
Port-en-Bessin  
tel +33 (0) 2-31-51-25-25  
www.lacheneviere.com

庭園を鑑賞した後は、ブレシー城から程近いノルマンディー様式のシャトーホテル、「ラ・シュヌヴィエール」に逗留。このホテルの敷地には、イチョウの大木がシンボルの美しい庭園が豊かに広がり、贅沢な散策が楽しめる。19世紀に流行したというマロニエや、松や杉、カバノキなど多数の見事な大木に囲まれ、鮮やかな緑の芝生が広がる庭は、森林浴をしているような清々しい香気を与えてくれる。菜園にはローズマリーやタイム、ミントなどのハーブやナス、ズッキーニなどが栽培され、レストランの料理に使用されているそうだ。

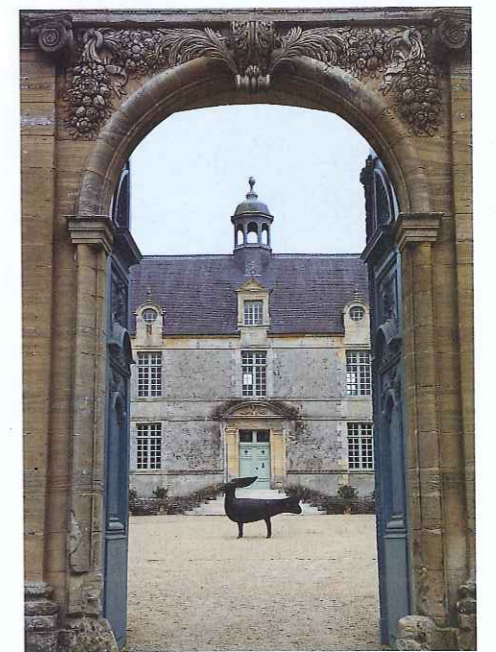


#### Jardins du Château de Brécy ブレシー城庭園

17世紀に作られた原形を残す稀な名  
庭園のひとつ。一般も入場可能。7€。  
時間をかけて、ゆっくり散策したい。

14480 Saint-Gabriel-Brécy  
tel +33(0)2-31-80-11-48

上右：庭師が愛情込めて、丹念に手入れ。  
上左：野ばらの趣を持つツルバラ、  
フランシス・E・レスターの花が咲き乱れて。  
右：ブレシー城庭園の入口。  
中庭のブロンズ像は、著名なアーティスト、  
フランソワ・グザビエ・ラランヌのモダンアート。  
左：シャトーからまっすぐ直線に伸びる  
道と左右対称に区割りされた庭園



高名な庭園設計家たちが  
思い描いた  
理想の庭園を追い求めて